学生ヒロシマ宣言

1945 年 8 月 6 日、ここ広島は人類史上かつてない地獄を体験しました。8 時 15 分、それまでの日常が一瞬にして破壊され、多くの尊い命が奪われたのです。そして生き残った被爆者は原爆によって身体的・精神的・社会的に苦しんできました。75 年経った今でも、被爆者は日本だけでなく世界に向けて、原爆被害による影響と核兵器廃絶の重要性を訴え続けています。被爆者の平均年齢は 83 歳を超えました。これまで最前線で核兵器廃絶運動を牽引してきた被爆者に私たちは敬意を表します。次世代を担う私たちには、被爆者が伝えてきた言葉の意味を噛み締め、決して風化させず、次世代につなげていく責任があります。

新型コロナウイルスは多くの命を奪い、社会経済に多大な影響を与えました。非正規雇用者をはじめとする経済的弱者は真っ先に職を失っています。医療従事者や感染者に対する誹謗中傷も問題となっています。それに加えて、世界ではこれまで以上に自国第一主義が台頭し、国家間の緊張も高まりました。このような中、核兵器廃絶に向けた各国の努力は停滞した感さえあります。必要以上に他国の存在を恐れ、各国は核兵器廃絶に向けた真摯な対話を進めていません。各国が自分の国を守ろうとすることだけを理由に核兵器への依存を正当化してしまうなら、核兵器廃絶への道はますます困難なものとなります。

現在世界に約 13,400 発の核兵器が存在します。核兵器禁止条約には 2020 年 8 月 1 日時点で 82 カ国が署名し、40 カ国が批准しています。しかしながら、核保有国はいずれもこの条約を批准していません。世界終末時計は人類滅亡まで残り 100 秒を示しています。各国のリーダーは核兵器禁止条約の発効に向けて、積極的に行動を起こしていくべきです。また、唯一の戦争被爆国として、ヒロシマとナガサキで起きた事実を受け止め、日本はこの条約に署名・批准すべきです。

世界に目を向けて見ると、ありとあらゆる差別が蔓延しています。たとえば、黒人差別、女性や LGBTQIA＋の人々に対する差別などが挙げられます。なぜ肌の色や性的アイデンティティによって差別を受けたり、命を落としたりしなければならないのでしょうか？私たちは、あらゆる形の差別のない世界を望みます。

人間の尊厳や平等を考えずして、平和を実現することはできません。私たちは、非人道的な核兵器を廃絶し、差別のない、世界中の人々に平等な機会が与えられるような世界を作りたいのです。そのために私たちは何ができるのでしょうか。被爆者の語る原爆被害の恐ろしさを学び、核兵器廃絶の重要性を理解すべきです。また、偏った意見に左右されず、若者自ら様々な問題を異なる立場から考え、行動することは、他者を尊重し、理解することへの第一歩です。

私たちが目指す社会は、必ず実現できます。被爆者の弛まぬ努力や Black Lives Matter は私たちに変革が不可能ではないことを教えてくれました。どんな困難や差別に直面しても、私たち若者にはこの世界を変える力があります。私たち若者が中心となり、全ての人々と手を取り合い、核兵器や差別のない平和な世界を創っていくことをここに宣言します。

2020 年 8 月 6 日　　2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット参加者一同